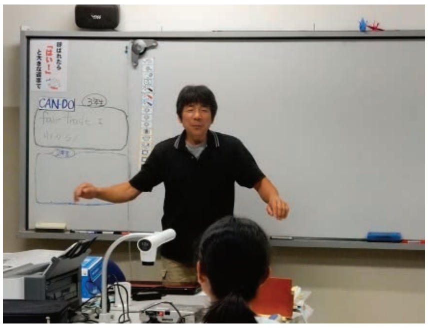
3 SDGs達成に向け、森でアクションしよう！～木を植え、育て、共に暮らす～

<table>
<tr><td>主催団体</td><td>特定非営利活動法人水守の郷七ヶ宿
連絡先　：　〒989-0532　七ヶ宿町字根添 26 番地 1
担当者　：　海藤　節生
☎ 0224-37-2171
e-mail　mmmnet7@yahoo.co.jp
URL　http://www.mizumori7.org/</td><td> </td></tr>
<tr><td>体験活動</td><td colspan="2">ＳＤＧｓ目標 15 陸の豊かさを守ろう！について、体験を通して学ぶ</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="2">森は温暖化の元となる二酸化炭素の吸収源であると同時に、水源かん養、土砂の崩壊防止、生物多様性など多面的機能を担っていることを身近に感じる</td></tr>
<tr><td>時間</td><td colspan="2">90 分　（45 分×2）</td></tr>
<tr><td>対象学年</td><td colspan="2">小学 4 年生　～　6 年生</td></tr>
<tr><td>関連教科等</td><td>4 年生　社会：水はどこから
5 年生　社会：わたしたちの生活と森林、
これからの工業生産とわたしたち
5 年生　理科：植物の発芽と成長</td><td>6 年生　社会　政治･国際編：世界の未来と日本の役割
6 年生　理科：地球に生きる</td></tr>
<tr><td>対象人数</td><td colspan="2">1 クラス（40 人まで）、　引率教師最低 3 名必要　（1 名は救護用車担当）</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="2">現地での体験活動</td></tr>
<tr><td>場所</td><td colspan="2">七ヶ宿町根添 26 番地内山林
名取市ゆりが丘 4-10-1（尚絅学院大学の学校林）
※学校敷地内（近隣）の立木で行うことも可能です。</td></tr>
<tr><td>時期</td><td colspan="2">通年</td></tr>
<tr><td>準備物</td><td>児童：長袖ズボン･シャツ（半袖不可）、帽子、長靴、軍手、水筒</td><td>教師：児童と同じ</td></tr>
<tr><td>留意事項</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

【活動の様子】



プログラムの流れ（学習指導案）　90 分

学 習 活 動	時　間 （分）	主催団体及び教師の役割 主催団体の役割	 教師側の役割　（最低３名）
1　本時の課題を確かめる	15	○自己紹介 ・みんなが大切だと思うものをそれぞれ交えた自己紹介を行う。 ・環境・経済・社会の三則面から持続可能性について講話を行う。（森を中心として 1 万年以上続いた世界遺産縄文文化にも触れる）	○点検と確認 ・現地でバスを降り整列、主催者側と挨拶する。 ・服装、準備物の再点検
2　森を活動場所まで歩く	10	・活動内容や場所の特徴を説明し、安全のための注意を促してから ○森を感じる。　（見る、聞く、匂い、触るなど、） ※学校敷地（近隣）の立木 ・事前にチェックするが秋口は、スズメ蜂、蛇に注意させる。	・指導者と共に先頭を歩き安全への配慮を行う。1 名は最後尾に。 ・感じたことをポストイットに書かせる。
3　グループワーク	5	○森で感じたことを書き出す。 ・P4C（Philosophy for children）を用いる。 ・小グループ毎にファシリテーターを決め、感想を収集する。	○グループ活動を指示 ・一箇所に集中しないようにする。（ソーシャルディスタンスの確保） ・安全への配慮に気を配る。
4　森林体験活動	40	○枝打ちや伐倒作業を体験から学ぶ。 ・木は温暖化の元となる二酸化炭素を吸収し固定する、持続可能な資源であることを理解してもらう。 ・木づかいについてグループ毎に意見を収集する。 【期待する効果】 ・木は生きて光合成により炭素を固定している。 ・森は人の手で育てていかなければならない。 ○枯れ枝を拾い実際に火を起こしてみよう！ ‣ 森のエネルギーに触れる（火起こしが出来る）	○教師は指導者の説明を受け事故防止の徹底に努める。 ・保護具の着用が徹底されているか？ ・使用しない刃物にきちんとカバーがついているか？ ・作業半径内に他のグループが立ち入っていないか？ ○児童の体調管理（適時の水分補給）に配慮する。
5　元の場所に戻る	10	○自由に森で行動する。 ・薪割りや丸太切り体験 ・木の実やきのこの観察 ・スケッチ	
6　グループワーク ・挨拶	10	○森に入って３で書き出したことと、終わりに感じていることの変容について話し合い。 ○自然を守るために出来ることをグループごとに発表する。	グループ名　森で感じたことから命名 ②　　森で感じたこと ②　森がすごいと思うこと ③　可能なアクション 裏面に SDGs の 17 の目標を印刷した A4 のカード